

# 行政改革推進会議（第29回）

## 議 事 録

内閣官房行政改革推進本部事務局

行政改革推進会議（第29回）

## 議 事 次 第

日 時 平成29年12月7日（木）17:15～17:33

場 所 官邸4階大会議室

1. 開 会

2. 議 事

平成29年秋の年次公開検証等の取りまとめ

3. 議長挨拶

4. 閉 会

○梶山行政改革担当大臣 それでは、ただ今から、第29回行政改革推進会議を開会します。

平成29年秋の年次公開検証では、東京以外で2回目となる地方での行政事業レビューを徳島県において開催し、徳島大学の学生を含め多くの方に、国の行政改革の取り組みに関心を持っていただく良い機会となりました。

今回のレビューの取りまとめの結果については、お手元の資料1のとおりです。

このほかに、資料2は各府省が取り組む事業の改善内容。

資料3は、各府省に対する基金の再点検の要請を取りまとめております。

河村議員、土居議員を始めとする歳出改革ワーキンググループの皆様には、多大なる御尽力をいただき、ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から御意見を伺いたく存じます。御発言いただく方は、お手数ですが、ネームプレートをお立てくださいますよう御案内申し上げます。なお、御発言はお一人1分程度でお願いできれば大変助かります。それでは、小林議員からお願いできますでしょうか。

○小林議員 ありがとうございます。

全般的に、非常に丁寧にPDCAを回していただいたという印象で評価をしております。

それで、3点、お願いを申し上げます。

まず1点目は、石油・天然ガス事業への出資という項ですが、JOGMECは業界にとりましても当分野での不可欠なパートナーということで、その内容も高く評価しております。案件の性格上、相手国での検討に長い時間がかかり、日本側では待つしかないという状況も散見されますので、これが今回の取りまとめに反映された内容の一因かと思えます。こうした実態を踏まえた丁寧な見直しをぜひお願いしたいと思えます。

2点目は、高等学校による先進教育ですけれども、SGH、SSHに認定されている幾つかの高校を訪問する機会がありました。認定により非常に鼓舞されて活性化しているのが現状だと思えます。より活性化させるという方向での見直しをお願いしたいと思えます。

3点目ですが、大学の研究等の担い手育成に関する見直しについては、特に若手研究者のモチベーションを下げることがないような形で、メッセージの出し方に配慮いただければと思えます。

全体として非常に評価をしております。ありがとうございます。

○梶山行政改革担当大臣 ありがとうございました。続いて、河村議員。

○河村議員 ありがとうございます。

本年も「秋のレビュー」に参加させていただきまして感じたことを申し上げさせていただきます。

過去も含め、毎年切り口を少しずつ変えて、繰り返し取り上げられている事業がございます。ただ、なかなか改善につながらない、効果が出ない。これは事業を執行している枠組みそのものに問題があるケースがあるのではないかと感じたものがございました。

それで、どこまでが行革の範疇か、なかなかわからないところもございますが、政策の

効果を高め、国の健全な成長につなげて、そして財政再建につなげるためには、枠組みのあり方がこのままでよいかといったあたりも見直しをすることがあってもよいのではないかと感じました。

以上でございます。

○梶山行政改革担当大臣 ありがとうございます。続いて、大塚議員。

○大塚議員 行革というと、どちらかというと予算を削る話になりがちのため、これまでも優先的に効果のあるところへ予算をつけるべきだという議論をしてまいりましたが、実際に効率的な予算執行について議論が始まっていることについて、評価したいと思います。

例えば、特に観光インバウンドの話は、現在とても多くの外国人旅行者に来ていただいているということもあり、予算が効果的に使われた事例ではないかと思います。今後もうこういった効果的な使い方を心がけていくべきです。

2点目は社会保障の問題です。この問題は非常に大きな問題であるため、広く国民に理解していただくことが非常に大事なこととなります。そのためにも、行政事業レビューにて広範に問題を取り上げれば、理解がさらに広がっていくのではないかと考えます。ぜひ御検討いただければと思います。

それから、マイナンバーについてです。マイナンバーは、行政の無駄を省くのに大変なポテンシャルを秘めています。実際に見ておきますと、担当行政の理解が必要にもかかわらず、残念ながらシステム含めた担当行政の理解が不十分という感じがしております。私は今、健康保険組合連合会の会長を務めておりますが、各健保組合等の現場の意見をほとんど聞かないままに、担当行政が利用方法やコスト等を通告してくることがよく見受けられます。効果的にマイナンバーを活用していくためにも、まずは全体像を示した上で、現場の意見もしっかり聞き、手戻りが無いように進めていくことが必要ではないかと思っております。

以上です。

○梶山行政改革担当大臣 ありがとうございます。続いて、秋池議員。

○秋池議員 今回のレビューも、昨年に続いて大学を会場として行われたということで、将来の世代が国の予算に興味を持つきっかけをつくる意味において、行政改革がこの予算の見直しということを超えて行われたこと、非常に意義があったと思っております。

もう一点、予算はその時々で状況が積み上がっていくものがありますが、今回のレビューのように、時々、戦略的な視点で振り返ってみたときに、組みかえや統合ができ、見直す意義が大きいと思っております。予算については、同じ省庁の中での議論も多いのですが、省庁を超えた視点で振り返ってみる。そして、場合によっては組みかえや統合をしたり、廃止する、このようなことを考えていくのは行革ならではの役割でレビューの重要性の一つと考えております。

○梶山行政改革担当大臣 ありがとうございます。続きまして、渡議員。

○渡議員 ありがとうございます。全体的に大変よくまとまっていると思えました。

私からは、PFI事業の推進に関して、2点御提案申し上げたいと思います。

1点目は、この行革会議で「公的分野の生産性向上」を取り上げたらいかかということですが。今後の人口減少やインフラの老朽化を考えたときに、国・地方の公的分野の各種事業について、「業務の効率化」や「事業の再編・統合」、あるいは「遊休資産の有効活用」に向けて、抜本的改革を進めて、公的分野の生産性向上を実現していくべきだと考えます。これは安倍政権の生産性革命の本丸でもあると思います。

例えば、老朽化の著しい上下水道の民営化の分野では、今後、事業コストの拡大、あるいは国民負担の拡大が必ず見込まれます。こうした分野での民間ノウハウを活用した生産性向上は喫緊の課題になっているものの、なかなか進まないのが現状です。したがって、この行革会議で上下水道に支出している公共事業の関係費や各種の交付金等を横断的にレビューするとともに、業務効率を検証しながら、生産性の向上に向けた課題解決を提示していくべきではないかというのが提案の1点目です。

2点目は、行政事業レビューでは、これまで国の予算の面を軸に論議が進められておりましたが、今後は、制度活用の面も視野に入れた取り組みをすべきではないかということです。

例えば、まず「春のレビュー」において、今後、巨額の更新投資が必要な事業をあぶり出し、所轄官庁にはそれに対して民営化やコンセッション等の導入の可否を検討していただく。そして、「秋のレビュー」で、その検討結果を審議する、というように深掘りをしていけば、行財政改革がより効果的に進んでいくのではないかと思います。

以上です。

○梶山行政改革担当大臣 ありがとうございます。森田議員。

○森田議員 ありがとうございます。

私自身はレビューには参加いたしませんでしたが、この報告書については拝見させていただきました。それについての印象ですが、2点申し上げたいと思います。

1点目は、やはりこのレビューをするときの評価の視点といいますか、方法ですけれども、どれくらいの費用を投入して、どれくらいの効果が上がったかという、ビー・バイ・シーといいたいでしょうか、分母分の分子ということをもう少し明確にする必要があるのではないかと思います。

これまで我が国の行革の場合、どちらかというと分母を小さくすることに専念してきたところがあると思いますけれども、むしろ効果の大きいものについてはエンカレッジするという、そうした視点も必要ではないかと思います。これが1点目でございます。

2点目は、この中でもIT自体が、ある意味で言いますと、導入自体が評価の対象といいたいでしょうか、レビューの対象になっておりますけれども、諸外国を見ましても、IT技術の行政・社会分野への導入というものは大きな利便をもたらすものと考えられておられて、我が国でもそこを思い切って進めていく。既に起こっておりますけれども、もう一段、先ほど大塚議員のほうからございましたように、マイナンバー制度の導入・活用も含めてで

すが、進めていく必要があるのではないかと思います。

それにつきましては、私も幾つかの省の審議会等にも参加させていただいておりますが、足元からということで、例えば判子を廃止するとか、紙はできるだけ減らすとか、そうした初歩的なことからまず取り組んでいただくのも一つのあり方かと思っております。

以上でございます。

○梶山行政改革担当大臣 ありがとうございます。土居議員。

○土居議員 私も霞が関、徳島のレビューに参加させていただきまして、安倍内閣になってから継続して、これを毎年のようにやっているということは非常に重要なことで、私の印象で言いますと、安倍政権の中でだんだん、こんな悪い事業をやっているのか、ひどいではないか、改めろという声は年を追うごとに減ってきているのではないか。こういう効果も牽制効果として、この行政改革のレビューが効いているのではないかと思います。そういう意味では、国民の新たな関心を呼ぶような行政改革の進め方、事業レビューの進め方というのは今後あるのかなと。

1つにあるのは、政策のPR、つまり、なかなか地味だけれども、いい政策を、いい事業をやっているというものがあって、どうしても、まだ国民には周知されていない。こういうものがあつたときに、事業のあり方を含めて、事業レビューの場で国民に広く知っていただく。インターネットで広く知っていただく。こういう進め方も今後あるのかなと思えます。そういう意味では、来年も引き続き、地方レビューも含めて継続してやっていただきたいと私は思います。

ありがとうございます。

○梶山行政改革担当大臣 ありがとうございます。田中議員。

○田中議員 ありがとうございます。私も2点申し上げたいと思います。

まず、経営者の方々の言葉をかりますと、行革にも攻めの行革と守りの行革があるように思います。守りのほうはいわゆる無駄の削減であり、攻めのほうは生産性革命にあるような、効果を上げるというものだろうと思います。その目で16件のレビューシートを見たのですが、14件は守り、2件は観光インバウンドだとかPFIの推進だとかという、これが攻めの改革だったと思います。この辺のバランスを今後も見えていく必要があるでしょうし、もう少し攻めの改革があつてもいいように思いました。

2点目は、EBPMであります。エビデンスとなるデータをもとにして、科学的な視点から政策を立案し、それを管理することは全く賛成であります。ただ、科学というものは非常に精緻化をして、しかもクリティカルに、批判的に物を見るという視点がありますので、それをそのまま行政に持ち込むと、細部をチェックすることに陥る可能性があると思っております。ですから、これも選択的に、より攻めの改革に資するような使い方をしていく必要があるのではないかと思います。

以上です。

○梶山行政改革担当大臣 ありがとうございます。では、麻生副総理から御発言をお願い

いたします。

○麻生副総理・財務大臣 「秋のレビュー」と言われる年次公開検証の結果の取りまとめにつきましては、これは皆様方にいろいろお力添えをいただきまして、まことにありがとうございました。

財務省といたしましても、目下、平成30年度の予算編成の最中でありましても、頂戴いたしました、この御意見というものを参考にさせていただいて、しっかり反映をさせていただければと思っております。以上です。

○梶山行政改革担当大臣 最後に安倍総理から御発言をいただきたいと思いますが、プレスが入室いたしますので、少々お待ちください。

(報道関係者入室)

○梶山行政改革担当大臣 安倍総理、それではよろしく願いいたします。

○安倍内閣総理大臣 委員の皆様におかれましては、安倍内閣発足以来5度目となる秋のレビューに御協力いただきまして、ありがとうございます。

国民の皆様には御負担をいただく税金が、無駄な歳出や優先順位が低い施策に使われることがないようにしていかなければなりません。加えて不断の改善が必要であります。

国民の皆様には公開されるレビューは、そのための重要な機会であります。

本日、梶山大臣から今回のレビューにおける指摘事項について御報告がありました。国民の皆様への関心が高い社会保障分野からは、今年は調剤報酬を取り上げ、その効率的なあり方について議論がなされました。

データなど証拠に基づく政策立案、すなわちEBPMを効果的に行えるようにするための検証も試行的に行っています。

麻生副総理からも御発言があったとおり、予算編成に的確に反映するとともに、さらに事業の改善に取り組んでまいります。

また、本日皆様から御発言いただいた点についても、しっかりと受けとめて今後の政策運営に当たると共に、地方でのレビューも今年に引き続き、開催したいと考えております。皆様の今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

○梶山行政改革担当大臣 ありがとうございました。

プレスの方は、ここで御退室ください。

(報道関係者退室)

○梶山行政改革担当大臣 以上をもちまして、会議を終了いたします。御協力ありがとうございました。